

(第1号様式)

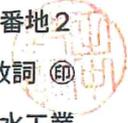
## プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット<sup>®</sup> 認証申請書

2024年11月28日

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 奥尻地区海藻生産・活用調査検討協議会

住所：北海道奥尻郡奥尻町字奥尻428番地2

氏名：奥尻町副町長 田中 敦詞 

(共同申請者) 株式会社渋谷潜水工業

住所：平塚市根坂間821-11 船ビル3F

氏名：代表取締役社長 渋谷 正信 

法人番号：2021001001074

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	「サステイナブル・アイランド奥尻」アクション 藻類によるBCプロジェクト

<p>プロジェクト区分 (複数選択可)</p>	<p>吸収源の新たな創出 吸収源の回復、維持、劣化抑制 水産養殖を含む</p>
<p>プロジェクト情報</p>	<p>【プロジェクトの背景、内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥尻町は北海道檜山振興局管内の奥尻郡にあり町域は奥尻島全域である。当地区においては、磯焼けの影響から採介藻の漁業の低迷もあり、2009年度から環境・生態系保全活動支援制度、2013年度から水産多面的機能発揮対策事業により藻場保全活動に努めている。古くから天然ホソメコンブ漁を営み、かつては献上昆布として重宝された記録があるが、見た目や大きさで他の昆布に人気が集まり下火となった。また、近年ではホソメコンブの天然ものは、奥尻町の特産品であるウニの餌としても貴重であることもあり、漁獲対象物としていなかった。2020年以前は、ホソメコンブの養殖は行っていない。</li> <li>・ホソメコンブの成分を調べてみると粘性多糖類が他の昆布よりも豊富であり味も良いなど良い点が発見されたため、天然資源の保護と新しい特産品の開発を両立すべく、2020年11月「奥尻地区海藻生産・活用調査検討協議会(以下協議会)」を組織し、「つくり育てる漁業」への転換を図る上でも、新に養殖に着手することとなった。天然海藻資源を保護しつつ、横展開することを将来展望としている。</li> <li>・2022年は当町が脱炭素先行地域に選定され、奥尻町ゼロカーボンシティ宣言をしている。</li> <li>・典型的な過疎地域で消滅可能性自治体にもなっており、2020年の総人口2410人が2050年には総人口が967人まで減少となる推計が出されている。</li> <li>・漁業者数においても減少の一途を辿っており、減少を抑制する上でも漁家の安定のためにも持続可能な取り組みとして、ウニ餌料用コンブとしてホソメコンブの養殖を推進していく。</li> <li>・子供達へは、漁業に興味を持ってもらうよう総合学習に協力し、併せて地産地消を進めている。</li> <li>・継続的な取り組みになるように、地域住民への周知・理解を高めることや子供達への教育のためにホソメコンブの養殖に一部参加する取り組みを行っている。</li> </ul> <p>【関係者と活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本プロジェクトは、ホソメコンブを養殖し全量残置することで養殖事業における生産活動と同時にブルーカーボンを生み出すことを目指している。協議会のメンバーとして、ひやま漁協奥尻支所、海藻活用研究会、行政機関が参加している。</li> <li>・協議会に参加する海藻活用研究会は産学官連携して海藻の活用を推進する組織であり、奥尻町の取り組みを生産・加工・商品化など各段階で支援している。</li> <li>・共同申請者の株式会社渋谷潜水工業は、海藻活用研究会への入会をきっかけに本プロジェクト達成のため、二酸化炭素吸収量策定に関する調査及び潜水調査などを行った。</li> </ul> <p>なお、(株)渋谷潜水工業は、20年以上前から藻場調査、再生活動を行っている潜水調査専門の企業である。</p>
<p>クレジット取得理由</p>	<p>【クレジット取得の理由】</p> <p>上記活動をより確かなものにし、ホソメコンブによるブルーカーボンの取り組みをPRし、町の活性化、気候変動緩和の規模拡大や継続的な活動を推進するため取得することにした。</p> <p>得られたクレジットは、本活動、天然藻場再生活動を継続して行うための資金に加えて行く。</p>
<p>クレジット取得後の計画や見通し</p>	<p>【クレジットを取得することによる気候変動緩和策】</p> <p>奥尻町では、環境省の脱炭素先行地域に選定されており、地熱、太陽光、木質バイオマス等による脱炭素に取り組んでいる。さらにブルーカーボンプロジェクトに取り組むことで気候変動緩和を進めて行く。今後、養殖事業で生産した種苗や天然ホソメコンブからの採苗を使用して天然の藻場再生を目指していく予定である。</p>
<p>申請対象期間に実施した活動の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年10月 ブルーカーボン創出のため養殖ホソメ昆布の生産スタート(協議会)。</li> </ul>

申請対象期間に実施した活動の概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・2023年11月 ホソメ昆布の種糸取付作業を実施(協議会)。</li><li>・2024年4月 6月26日調査のための養殖施設視察、事前確認、予備調査、(協議会、渋谷潜水工業)</li><li>・2024年5月 養殖ホソメ昆布を陸揚げし、CO2削減の取組として、地域住民への周知や子供たちへの教育を行う(協議会)。</li><li>・2024年6月26日 ホソメ昆布重量測定、ドローン撮影、潜水による撮影(協議会、渋谷潜水工業)。</li></ul>
プロジェクト実施開始日	2022年12月1日～現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻  【藻場】 コンブ場  【構成種】 ホソメコンブ</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とするロープの長さ	<p>【ロープ長】  2000(m)  【ロープ長の算定根拠】  ヒアリング、ドローン撮影による。  ※ロープ長は、縦綱(養成綱)の長さを記載している。  詳細は、添付ファイル1を参照  【ロープ長の資料】  241024奥尻申請(添付ファイル1).docx</p>
	④吸収係数	<p>【水揚量】  0(t)  【水揚量の算定根拠】  全量残置のため水揚げはない。  ※養殖したホソメコンブは収穫せず、全量残置している。  詳細は、添付ファイル2を参照  【水揚量に関する資料】  241024奥尻申請(添付ファイル2).docx</p> <p>【残置量】  27.522(t)  【残置量の算定根拠】  全量残置している。  残置量は、一部収穫し、その重量から算出している。  詳細は、添付ファイル2を参照  【残置量に関する資料】  241024奥尻申請(添付ファイル2).docx</p>

項目1	④吸収係数	<p>【含水率】 88.2(%) 【含水率の算定根拠】 12サンプルの含水率を測定し実験値から算出 詳細は、添付ファイル3を参照 【含水率に関する資料】 241024奥尻申請(添付ファイル3).docx</p> <p>【P/B比】 2.6 【P/B比の算定根拠】 文献値から算出 詳細は、添付ファイル3を参照 【P/B比に関する資料】 241024奥尻申請(添付ファイル3).docx</p>
-----	-------	--

<p>項目1</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【炭素含有率】 27.2(%) 【炭素含有率の算定根拠】 実験値(実測)から算出 詳細は、添付ファイル3を参照 【炭素含有率に関する資料】 241024奥尻申請(添付ファイル3).docx</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値 (「Krause-Jensen&amp;Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」) を参照 【残存率1に関する資料】 241024奥尻申請(添付ファイル3).docx</p> <p>【残存率2】 0.0285 【残存率2の算定根拠】 文献値 (「港湾空港技術研究所 未発表資料」) を参照 【残存率2に関する資料】 241024奥尻申請(添付ファイル3).docx</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値 (「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」) を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
------------	--------------	--

項目1	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2-2  【算定結果（吸収量）】 0.637(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95%  (ロープの長さ：2000(m)×評価：95%)  【吸収係数の評価】 97%  (吸収係数：0.000318744×評価：97%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	【船舶の種類】 船外機船 (11kW / 15PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 0.75(h) 【出力】 128.00(kW) 【燃料の種類】 ガソリン 【CO2排出量】 0.047(t-CO2)

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖実施前をベースラインとした。</li> <li>・養殖前の同町沖海域には、海藻が繁茂していない。</li> <li>・申請者による養殖ロープの設置や、種苗糸の供給、コンブ養殖活動なしでは海藻は繁茂しない。</li> <li>・そのためベースラインを0t-CO2/年とする。</li> </ul> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.54(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	0.5 t
------------------	-------